

点描の自画像—鑑賞から表現へ—

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 自己形成力

① 題材について(題材観・生徒観・指導観)

1 題材観

本題材は中学校学習指導要領美術の第2・3学年、特にA表現(1)ア「対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。」(3)ア「材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。」、B鑑賞(1)ア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。」より設定している。本題材は、鑑賞活動からの表現領域への接続性・発展性を意図している。鑑賞活動の中で、対象の見方や感じ方を深め、その中で見つけた表現の工夫を活用して作品を制作することを通して、豊かな表現活動へと発展させていくことができるものとする。顔の骨格を意識した人体表現の自画像の題材を設定する。中学校3年間で「描くこと」の最後の表現題材である。上級学校に進学する者は、美術は芸術選択教科になり、就職する者は、絵を学んで描くこと自体が最後になる場合もある。そこで、人物画である自画像という題材で、自分を深く見つめ感じ取り、点描法という技法を使ってじっくりと表現し、中学校3年間の記念に残す作品づくりをさせたいという思いから題材を設定した。自分の顔を観察し、作家の点描法を活用して描くことで、見方や感じ方を深め、自分の主題を明確にし、創造的な表現に発展させることをねらいとする。

2 生徒観

美術科アンケート調査では、以下の表のような結果であった。

①「絵を描くことが好きだ」	肯定的な 回答の割合	76%
②「美術鑑賞をすることが好きだ」		84%
③「作品鑑賞の時、自分と違った思いや感想を仲間とさらに深く話し合うことができる」		89%
④「普段の生活で、自分の考えや思いを積極的に言葉で説明できる」		97%
⑤「美術鑑賞の時に技法や表現の工夫に興味を持ったことがある」	否定的な 回答の割合	21%
⑥「興味を持った技法を使って絵を描いたことがある」		31%
⑦「自分の考えや思いを色や形で表現することができる」		64%

本学級の生徒は、どの教科でも他者とかかわりに意欲的である。総合的な学習の時間では、プレゼンテーションを行い、他者とかかわる中で、自分の考えを広げたり深めたりすることも経験している。但し、今回のアンケート結果⑤⑥の否定的な回答から、鑑賞活動に意欲的に意見を話す一方で、裏付けになる事実を基にして自分の意見が十分に言えていない。そこで、「根拠をもとに正しい判断をすること」には課題があることが分かった。本題材では、作家の表現の工夫と意図を説明する鑑賞活動を設定し、その後、自分の表現の工夫と意図を根拠をもって説明し合う言語活動を設定することで、論理的思考力を高めることをねらいとした。

また、絵を描くことに否定的な理由として「下手だから」「面倒くさい」「面白い絵ならいい」といった回答があった。このことに対して、自分の顔という身近な素材を使い、作家の表現技法の活用を限

定することで、生徒自身の絵を描くことへの苦手意識を少なくし、粘り強く表現を追求してくれることが期待される。尚、本題材で扱う点描法は、触覚性を持った表現方法でもあるため、ローウェンフェルドが提唱した認知の観点から子どもの3つの描画タイプ「視覚型」「触覚型」「どちらともいえない」、のどの生徒のタイプにも対応できると考える。

3 指導観

指導にあたっては、「根拠をもとに正しい判断をする」ために、本題材では、自画像の人体をじっくり観察、光による陰影の形を発見させ、点の粗密による陰影の表し方を、鑑賞活動で見つけた作家の表現技法を活用させることで、表現の根拠と学習内容を関連付けるようにする。本学級の生徒の「対象を深く見つめて表現すること」に対する課題を克服するために、鏡だけではなく、デジタルカメラの写真を使用し、自分の顔の形のトレースをさせ、光による陰影の形を固定的に可視化させるようにする。「論理的に粘り強く表現を追求すること」に対しては、自画像の制作方法を点の粗密による陰影の表し方である点描法に絞り、背景を自分の意図に合う表現方法の工夫をして、その中で自分の主題を生み出し、自分自身の表現を追求させるように仕組む。そして、表現方法を限定して、制作活動に集中させる中で、生徒自身が自ら考え、創意工夫して表現し続ける姿を生み出していきたい。題材終わりには、中学校3年間の美術の表現活動の振り返りと自画像の思いを文章にして、学習内容とキャリア教育の視点を取り入れたパフォーマンス課題を設定することで、主体的な学習につなげていきたい。

② 題材の目標と身に付けさせたい力について

1 題材の目標

- (1) 点描法の点の粗密による陰影の表し方に関心を持ち、自画像の陰影表現に活用している。
- (1) 自画像作品から、作品解説文と20年後の自分をイメージして、未来の私に向けての手紙を書くことができる。
- (2) 自己を深く見つめ、夢や目標、想像や感情など心の世界を基にした点描表現の工夫から主題を生み出している。
- (3) 自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーキングペンや色鉛筆の特性を生かし、表現意図に合う陰影の表し方を工夫して、創造的に描いている。
- (4) 点描作品のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り理解し、自分の見方を深め、根拠を持って説明している。

2 題材の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
① 様々な描画材による点描法のよさや色彩の美しさ、人体の陰影の表し方の工夫などに関心を深くもっている。(表現)	① 自己を深く見つめ、夢や想像や感情などの心の世界などを基に点描表現の工夫から、主題を生成している。	① 自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表している。	① 感性や想像力を働かせて、自分の価値意識を大切にしながら美術作品のよさや美しさなど感じ取り味わったり、批評し合ったりする。
② 夢や目標、想像や感情などのイメージをもって自画像の創造活動に主体的に取り組み、自己実現の喜びを味わい美術を愛好していこうとする。(表現)	② 点の粗密による陰影の表し方の単純化や省略、強調、構成の仕方、描画材料の組み合わせなどを工夫して心豊かな表現の構想を練る。	② 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現することができる。	② 点描作品から、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し、根拠を持って説明し合う中で、見方を深める。
③ 造形的なよさや美しさ、作者の表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。(鑑賞)			

3 本題材で育成を目指す資質・能力

- (1) 本校の設定した資質・能力と本題材との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本題材での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思	①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
		②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	○
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とのかかわる力	他	①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	—
		②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	—
社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	○
		②自信を持つ力	○

(2) 本題材で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	本題材で学習した造形要素の意味や使い方を解説文を書いて説明させる。
思ー①	表現の工夫を技法や用具、材料の性質の表現効果を比べて説明し合う。
思ー②	ウェビングマップ等を活用し複数のアイデアを出させる。
思ー③	話し合う内容の視点を決めて、説明させる。
主ー①	「つくりたい」「身近な」「なぜ?」と自ら必然性を考える強い課題設定を行う。
自ー①	自分が制作した作品や学んだことに対して、自分の思いや意図を話し合わせる。
自ー②	努力した所や工夫した表現をした時に、積極的に褒める。
	丁寧な作品を完成させる。

③ 題材計画

1 題材の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：題材として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ 顔の骨格を意識した人物画の自画像について、Ⅱ マーキングペンや色鉛筆などの描画材を使い、鑑賞した作家の点描法を活用して陰影を表すことを通して、Ⅲ 見方や感じ方を深め、自分の主題を明確に生成して、創造的に表現する力を培う。
--

2 題材の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
今を生きるあなたの自画像作品を鑑賞して、作品解説文と20年後の自分をイメージして、未来の私に向けての手紙を書くことができる。	A 自画像作品から、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を関連付けた解説文を書き、未来の自分に「頑張ろう」と思わせる、前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている今の自分の様子が分かる手紙を書いている。
	B 自画像作品から、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫の解説文を書き、今の自分の様子が分かり、未来の私に向けての手紙を書いている。
	C 作品の解説文と未来の私に向けての手紙を書いている。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価			
			関	発	創	鑑
			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】		※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。	
課題の設定	1	○ 様々な自画像を鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫について話し合い、自画像制作に向けて今の自分の心情を言葉で書き出すことができる。 ● 教科書や教師が準備した自画像作品を鑑賞し、作品に込められている作者の心情が多様な方法で表現されていることを知る。 ● 自分の心情を言葉で書き出す。		◎		表情、動作、色づかい、筆づかい、描画材料などが多様な作品から、作者の心情を感じ取っている。自分を見つめるためのウェビングマップを使って、心に浮かぶ言葉を書いているいろいろな見方・考え方を持とうとしている。 (ワークシート)【思-②】
	2	○ 自分の顔の骨格を意識して、鏡を見て観察し、どういった位置で顔が写るのか、どういったポーズがよいのか検討できる。 ● 胸像になる鏡の位置やポーズについて考える。 ● 光の方向に注意させ、骨格を意識させて、立体感を感じ取る。 ● 教師に胸像になるようにデジタルカメラで撮影してもらう。			○	自画像制作の材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現できるように 根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。 (ワークシート)【思-①】
	3	○ 作家作品の鑑賞活動から作者の表現の工夫と表現意図を根拠をもとに説明することができる。 ● ジョルジュ・ピエール・スーラの『グランドジャッド島の日曜日の午後』を視点を決めて鑑賞し、自分の考えや感じたことや作者の意図や表現の工夫を見つけ、根拠を示しながら、説明し合う。 ● スーラは光の作用による色彩現象を並置混色による点の筆触分割で表現していることを知識として学び、陰影で表す自画像制作にも活用できることを理解する。			◎	点描作品から、 作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し、根拠を持って説明し合う中で、見方を深めて、自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝えようとしている。 (ワークシート)【思-③】
	4	○ デジタルカメラの写真を使用して観察し、固定された陰影の形や自分の顔の外形を補助線やトレーシングペーパーを使って写し取ることができる。 ● 正中線を引かせ、人体の動きを意識する。 ● 顔の外形を描き、3段階の明度分割をする。			○	自画像制作の材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、 見直しをもって表現できるようにしている (行動観察)(作品)【主-①】
情報の収集 整理・分析	5	○ 骨格を意識し、大まかな立体感をつかみ、光の方向による明暗を観察し、目や鼻、口などの細部の面のつながりを意識して、明度分割して描くことができる。 ● 顔全体の中で目や鼻、口の位置が適切であるか、鉛筆やペンを使って測っていく。 ● 鉛筆で同じ明るさの部分にくるくると描き、6段階の明るさまで明度分割を行う。同じ明るさの所に番号をふるなどの明度の違いが分かる工夫をする。			○	自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、自分の表現意図に合う 新たな表現方法を工夫するなど自ら課題を見だし、解決しようとしている。 (行動観察)(作品)【主-①】
	6	○ マーキングペンや色鉛筆を使って、陰影を点の粗密で表現することができる。 ● 点描法の陰影の表し方を作品から知る。 ● マーキングペンや色鉛筆などの描画材を使って点描法の練習を行い、表現効果について知る。 ● 6段階に明度分割した自画像を、どんな描画材を使って、どのように点描するのかを考え、自画像制作の構想を練る。 ● 鑑賞タイム			○	点の粗密による陰影の表し方の単純化や省略、強調、構成の仕方、描画材料の組み合わせなどを工夫して心豊かな表現の構想を練ろうと 学習したことを自ら活用しようとしている。 (ワークシート)【知-①】
まとめ・創造・表現	7	○ 点の粗密による陰影の表し方を工夫して、立体感のある自画像を描くことができる。 ● 目の表現は、頭蓋骨のへこみに球体である眼球が入っている構造をとらえる。まぶたから指先で触ってみて、立体感を意識させ、白目にまぶたの影が落ちていたり、黒目に反射で光っている部分があるなど。				自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーキングペンや色鉛筆などの描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う 新たな表現方法を工夫する などして創造的に表して、 根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。 (行動観察)(作品)【思-①】
	8	● 顔の鼻とあご、頬などの骨の硬い部分と口の筋肉など柔らかい部分を描き分けるようにする。				
	9	● 常に部分と全体を見ながら、進めていき必要な部分を強調したり、省略しながら描き進めていき、自分らしさが出ている表現を追求していく。 ● 骨格標本や人体解剖図を利用する。			◎	

	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分らしさを表現する背景の工夫をすることができる。 ● 事前にワークシートのウェビングマップで自己分析した自分の内面を、色彩や形で表現し、架空の空間を設定していく。 ● 書き出した言葉を基に、アイデアスケッチをしながら主題を明確にし、画面を構成する。 ● 背景と自画像との関係で描いていることを注意しながら表現する。 	◎			自己を深く見つめ、夢や想像や感情などの心の世界などを基に点描表現の工夫から、 主題を生成して、自ら課題を見だし、解決しようとしている。 (ワークシート) (作品) 【主-①】
実行	11	<p>【パフォーマンス課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パフォーマンス課題に取り組むことができる。 ● 自分の自画像作品を見て、解説文を書くことができる。 ● 自分の自画像作品を見て、20年後の自分に向けて手紙を書くことができる。 	◎			自分の自画像の造形的なよさや美しさや表現の工夫などに興味をもち、感性や想像力を働かせて、 自分の価値意識を大切にしながら作品のよさや美しさなどを批評して解説文を書くことができる。 (ワークシート) 【知-①】 【思-①】 【思-③】 未来の私に向けて手紙を書き、自己の内面を主体的に感じ取ろうとするなど前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとしている。 (手紙) (作品) 【自-①】 【自-②】
振り返り	12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの過程を振り返ることができる。 ● 題材の学習の振り返り ● 作品鑑賞 	◎			本題材を学習して、何を学習したのか、どんな知識・技能を得たのかを振り返ることができる。 (ワークシート・振り返りシート) 【知-①】

④ 本時の学習

1 本時の目標

人物の陰影の表し方を、作家の点描技法を使って、自画像制作に生かすことができる。

2 本時の評価

評価規準	評価基準	
ウ①自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーキングペンや色鉛筆などの描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表して、根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。 (行動観察) (作品) 【思-①】	A	形や色、光などの造形要素を意識して、点の粗密による表現をしており、自分の意図に合う表現の工夫をしている。
	B	形や色、光などの造形要素を意識して、点の粗密による表現をしている。
	C	点の粗密による表し方をしている。

3 準備物

参考作品、ワークシート、実物投影機、自画像、鏡、マーカーペン (黒・カラー1色)
色鉛筆6色 (赤・橙・黄・緑・青・紫)

4 学習展開 (7限目/12)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
学 習 活 動			指導上の留意点 ◇支援			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】

【本時のめあて】人物の陰影の表し方について、作家の点描技法を使って、自画像制作に生かすことができる。

<p>導入 (12分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 点の粗密による作品を提示する。 モノクロ (人物表現) カラー (人物表現スーラの作品) 参考作品を見て、表現の工夫を発表する。 (J)…じっくり考える) 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の準備をさせる。(自画像作品・色鉛筆6本・マーカーペン黒・カラー1本) ワークシートを配布する。 拡大鏡や手元資料を見て、ワークシートに、参考作品の表現の工夫を書かせる。 モノクロ (表現の工夫…粗密のある点等・印象…静か等) カラー (表現の工夫…並置した点等・印象…明るい等) 	
<p>展開 (30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自画像の表現方法を次の制作条件から選択する。 表現方法 A (モノクロ) 1ミリ以下の点で、マーカーペン1色を使って、自画像を描くこと。 表現方法 B (カラー) 1ミリ以下の点で、色鉛筆6色を使って、自画像を描くこと。 自画像制作をする。 (H)…はっきり表現する) 途中鑑賞で表現の工夫を発表する。 自画像制作をする。 (K)…くり返し挑戦する) 	<ul style="list-style-type: none"> 自画像の表現方法を次の制作条件から選択させる。 (表現方法 A・表現方法 B) ◇ 表現方法が決められない生徒には、ワークシートの目の表現をモノクロ・カラーを使って練習して、イメージを持たせるようにする。 ケント紙に自画像制作をさせる。 輪郭線や太い、濃淡の濃いところから点を打つ影や色が濃い部分…密集している。細かい影や色が薄い部分…まばらである。粗い光が当たっている部分は、白い部分を残す。 光に向かって、点の数が少ない黒い部分をつくる。濃い色を積極的に使う。 混色する場合 (視覚混合効果) …混ぜたい色を隣同士に並置する (並置混色)。但し、点の分量を考慮するようにする。(緑…黄の点が多い・青の点が少ない等) 途中鑑賞をして生徒作品と表現の工夫を紹介する。実物投影機を使用する。 自分の表現の意図について話すように問いかける。友達の表現の工夫の発見を活用してみようと話す。 	<p>ウ①自分の顔の骨格や人体構造をよく観察し、マーカーペンや色鉛筆などの描画材料の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表して、根拠をもとに、正しい判断をしようとしている。 (行動観察) (作品) 【思-①】</p>
<p>まとめ (8分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 片付けをする ワークシートを提出する。 振り返りカードに記入する。 美術係による振り返りを行う。 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具や作品の管理と片付けの指示をする。 ワークシートを机の後ろから集めさせる。 振り返りカードに本時の振り返りを記入させる。 美術係を指名して、振り返りを発表させる。 次時の準備物と作業進度について話す。 	

5 板書計画

本時のめあて 人物の陰影の表し方について、作家の点描技法を使って、自画像制作に生かすことができる。
自分の自画像制作のために、次の点描技法から選びなさい。

表現方法 A
1ミリ以下の点で、マーカーペンを使って、自画像を描くこと。

表現方法 B (スーラ)
1ミリ以下の点で、色鉛筆6色を使って、自画像を描くこと。

今日の表現の工夫

例. まぶた…筋肉の動きによって点を打つくちびる…上唇と下唇の点の粗密を変える。

カラー…青と緑の点の組み合わせをする。
橙と紫の点を交互に打つ。